

まちの保健室



Supported by サンちゃんち

7世代先の子どもたちへ
生きごこちの良い
まちを手わたすために



『まちの保健室』

公共空間で、地域のみなさんがふらっと立ち寄れる、学校の保健室のような存在です。

ちょっとした雑談から、ひとりで抱えたくない悩みごとまで、安心してお話できる場をひらいています。

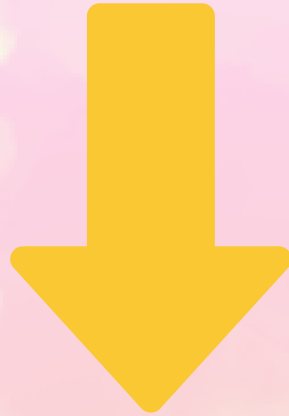
必要に応じて、専門機関や人とのつながりを丁寧にお手伝いします。

誰かとつながりたいと思ったとき、ふと思い出してもらえる場所でありたいと願っています。

大人が変われば、子どもが変わる。子どもが変われば、未来にもっとたくさんの幸せが広がっていきます。



2024年度の子どもの自殺者数は
過去最多という深刻な状況になりました。



※
自殺希少地域と呼ばれるエリアでは
地域住民が『病は市に出せ』という態度を持って
困り事をオープンにし助けを求める文化が
地域全体に浸透していることがわかりました。
この特徴は『まちの保健室』の理念とも深く
響き合います。

まちの保健室でできること

オープンダイアログ

対話の手法を活かして、ひとりの声を大切にしながら安心して話せる場をつくります。

傾聴

ありのままの思いや悩み、大切な人を失った悲しみなど受けとめ、心が少しでも軽くなるお手伝いをします

からだのお悩み相談

看護師が常駐しているから、ちょっとした体調の不安も気軽に相談でき安心感につながります。

アドボカシー

子どもを一人の人として尊重し、安心して話せるように寄り添います。無理に聞き出すことはしません。いつでも、子どもの味方です。

グリーフケア

小さな赤ちゃんを亡くしたママ達が癒され、安心できる場をつくります。「めいから」のOKURUMI活動でベビー服など製作します。

※

性教育

自分のことも他者のことも大切にすることを育むために、未就学児からのおやこ性教育や、年齢や立場に合った性教育をサポートします。



※OKURUMI活動とは
見おくるOKURUMI
優しくくるむOKURUMI
恩おくりのOKURUMI

地域文化として育てていく重要性



『まちの保健室』のような、小さくても誰かとつながれる場を、地域の文化として丁寧に育てていくことが大切だと感じています。そこで「ほっとした」「うれしかった」と思えるような小さな出来事を紡いでいく。そうした日々の積み重ねがまちの糧となり、次の世代にも自然と伝わっていく。そんな営みが生きごこちの良いまちを手わたすことにつながります。